

風舎のアーティスト3名、台湾上陸！！（令和6年3月19日～3月22日）







臺南市美術館
TAINAN ART MUSEUM

臺南市美術館 2 館
展覽室 K、L、M
Tainan Art Museum Building 2,
Gallery K, L, M

アートは自由の力！

李立宏、丸山咲、大和夫、中武俊井、上野太郎、太田浩一、
木野良和、坂元創、村田清司、和田肇子、和田朋人、松本孝夫、
林達甫、後藤拓也、尾田祥代、椎原大智、鈴木健太、藤本正人、藤野公一、
刀政文、王淨儀、王韻華、呂明翰、李哲言、杜惠敏、林桂卿、顏聖正、
張麗彬、翁曉儀、蔡婷婷、曹錦輝、莊毓熙、鄭冠元、鄭高彤、陳志欣、
潘柏宇、陳維博、曾博聖、黃智賢、黃智毅、楊子儀、楊本樺、楊淑新、
陳耀輝、劉國瑞、謝佑威、謝聖均、韓偉俊、羅明廷、蘇志禾

藝術是自由的力量

Li Zeng-wen,
Wang Yu-lun,
Wang Shao-hua,
Lu Ming-han,
Lee Che-yen,
Tu Su-ching,
Lin Kuei-ching,
Shi Yan-zhi,
Shi Qing-bin,
Weng Jun-wei,
Chang Ting-i,
Cao Shang-wei,
Zhuang Zhou-kai,
Guo Guan-zhi,
Guo Yu-tung,
Chen Zhu-xin,
Chen Bo-heng,
Justin Imer,
Tseng Po-tsheng,
Huang Guan-zhi,
Hung You-kai,
Yang Zhi-yi,
Yang Jie-han,
Yang Jun-xin,
Yang Yao-chang,
Liu Jin-gyu,
Pan You-wei,
Hsieh Ping-chun,
Han Pei-jing,
Chueh Icheng,
Su Yi-he

Art is
The Power of
Freedom

藝術是自由的力量

アートが結ぶ 障害者と社会

アートは 自由の力

台湾の美術館で開催中の知的障害のある芸術家による作品展に、本県からも多数が出品され注目を集めている。海外で作品を見てもらう機会が限られる中、現地で高い評価に出品者は創作意欲をかき立てられており、関係者は「自信を深めた彼らから、アートを通して社会と関わりを持つきっかけになれば」と願う。

和田江美子さんの書「アートは自由の力」



城ノ下彩佳さんのアクリル画「森の中のティータイム」



現地で交流、出品者に自信

台湾で開催中の知的障害のある芸術家による作品展に、本県からも多数が出品され注目を集めている。海外で作品を見てもらう機会が限られる中、現地で高い評価に出品者は創作意欲をかき立てられており、関係者は「自信を深めた彼らから、アートを通して社会と関わりを持つきっかけになれば」と願う。

高峯社長は「自信を深めた彼らが出品を目標にできると、台湾での作品展を続けていきたい」とした上で、「彼らの活動に触れた障害者がある子どもたちが自分を表現する方法をアートに見いだし、社会との接点を持つきっかけになればうれしい」と期待を込める。(西村公美)

台湾作品展に本県から51点

品に心酔。展示会サイトには同市の地域活動支援センター「二青・あわい」の和田江美子さん(35)が力強く揮毫した「アートは自由の力」を採用し、2月に始まった作品展は現地芸術誌「芸術の意義を再考する機会となった」と評価するなど注目を集めている。3月には県内出品者が現地を訪ね、来館者と交流する機会もあった。

デイリー

第18752号 (第3種郵便物認可)

アートは自由の力

台湾の美術館に展示

日常の中で生まれた作品たち

日向・風舎の井上さん、鈴木さん、後藤さん

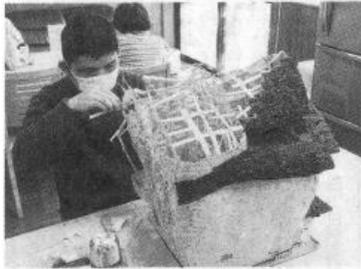
日向市の社会福祉法人「風舎」(前日学理事長)の事業所に通う利用者の人々の作品が、台南市美術館で開催中の作品展「アートは自由の力」(5月13日まで)に出展されている。知的障害や自閉スペクトラム症を抱える人にとって、作品制作は自分を表現する「コミュニケーション手段の一つであり、取り組む喜び、つよみの光輝」として事業所の目標に掲げ込んでいる。



自作の絵、マリリン・モロー(右)と西郷隆盛(左)をテーマにした作品を展示



金づちとマイナスドライバーを使い、丸太を削る鈴木健太さん



昼食後、食堂で「いえ」の制作に取り組む後藤拓也さん

このうち県内からは、日向市の生活介護事業所「風舎・つるま」に通う井上雄太郎さん(37)の展示企画を支援する「エール」チームが来日し、県内からは個人10人とエールアップの作品51点が選ばれた。

このうち県内からは、日向市の生活介護事業所「風舎・つるま」に通う井上雄太郎さん(37)の展示企画を支援する「エール」チームが来日し、県内からは個人10人とエールアップの作品51点が選ばれた。

拓也さん(37)の作品が選ばれた。井上さんは絵を描くのが好き。クレヨン、水性サインペンなどを使い、特に人物の顔を多く描く。スケッチブックのほか、クッションや棚などにも描くため、事業所内には井上さんの絵があふれている。

作品展には「えりかちゃん」の骨とあそびの「トイ」の色と細帯の工業用「君山板木」など絵画点が展示されている。鈴木さんは金づちやマイナスドライバーを使い、丸太を削る。

後藤さんは、棒状に折曲げたり四角形に切ったりした紙をボックスで突き合わせた「いえ」を作り続けている。制作時間は1日10分ほど。事業所の定休日の休憩時間に食堂で、必ず決まっている。

一つの作品約1年かけて完成させる。現在制作中の作品は、取りかかって1カ月ほどたつという。間取りが描かれた土台となる壁紙の上に、骨組みや外壁、さらに屋根がつけられていく。

屋根と外壁ですべて覆って完成させた場合、ほか、骨組みが一部むき出しのまま完成させる場合もある。

合もある。作品展にはいろいろと展示されている。外から見ると不思議な感じもありませんが、こゝは目が見えない人たちの世界だ。たまたまアートの世界だったのだと話す。(40)何か良いものを作ってあげたい。きょうの体調はどうかな。きょうは集中できているかな。そんな声の間にあったが、3人の場があった。たまたまアートの世界だったのだと話す。